

## 1 本県の藻場の状況

近年、冬季の海水温の上昇により、ウニ等が活発に活動し、この時期に発芽したコンブ等大型海藻類の芽を食べつくしてしまうことにより磯焼けが発生し、コンブ等を餌とするアワビなどの漁獲量が減少

### (1) 本県の藻場面積及びアワビ漁獲量の推移



### (2) 藻場の衰退要因

- ① ウニによる食害 ← 主要因
- ② 砂等による基質の埋没



ウニの食害

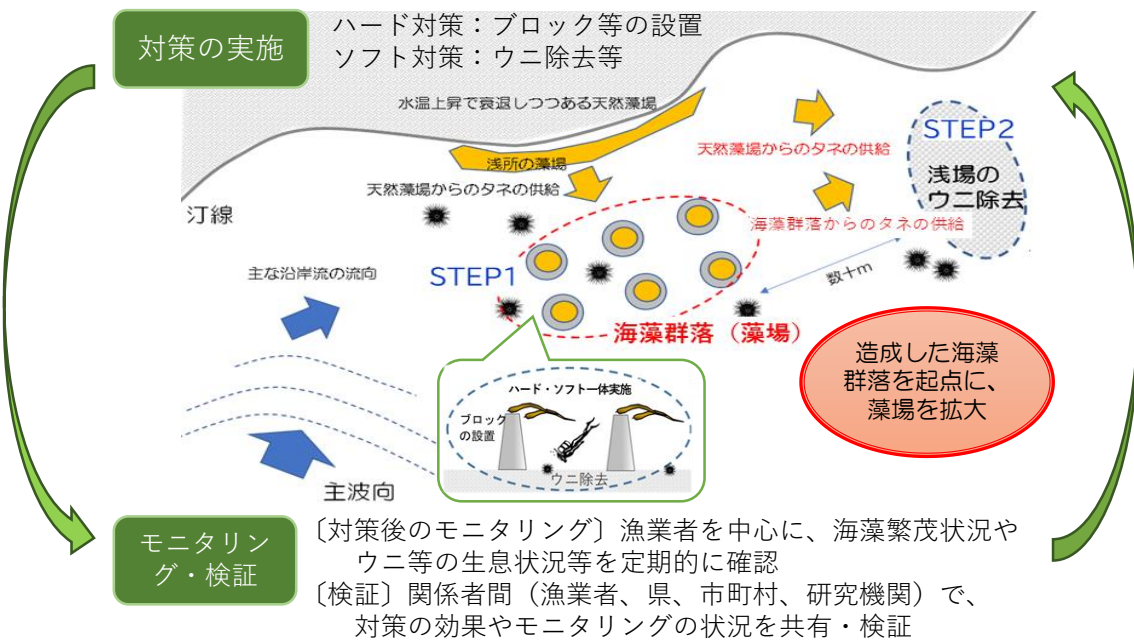


基質の埋没

## 2 藻場の再生に向けた対応

▶ アワビ等の資源回復を図るため、藻場再生に向けた取組の方向性を示す「岩手県藻場保全・創造方針」を策定 (R3. 3)

【方針の概要】 ハード対策とソフト対策の連携によりコンブ等のタネ（遊走子）を供給する核となる海藻の群落を造成し（STEP1）、周辺漁場でウニの密度管理等のソフト対策を行う（STEP2）ことにより、藻場の拡大を図る。



### ⇒ 令和3年度の取組

- ・ブロック投入と海中林設置の一体的な取組の実証試験（宮古市）

## 3 今後の取組

### 令和4年度

- ①ハード対策：
  - 藻場造成（水産環境整備事業等）を3地区で実施（久慈市、宮古市、大槌町）
- ②ソフト対策：
  - ・漁業者によるウニ除去等を実施
  - ・ドローン等を活用した簡易藻場モニタリング手法の検討

### 令和5年度以降（予定）

- ①ハード対策：
  - 藻場造成を各地区で展開
- ②ソフト対策：
  - R4の取組を継続実施するほか、ハード対策と合わせてウニの密度管理等を実施



【目標】 令和12年度までに、平成27年の面積（約2,300ha）まで回復。

※今後の海洋環境の変化やモニタリングの結果等を踏まえ、適宜、対策等の見直しを行う。